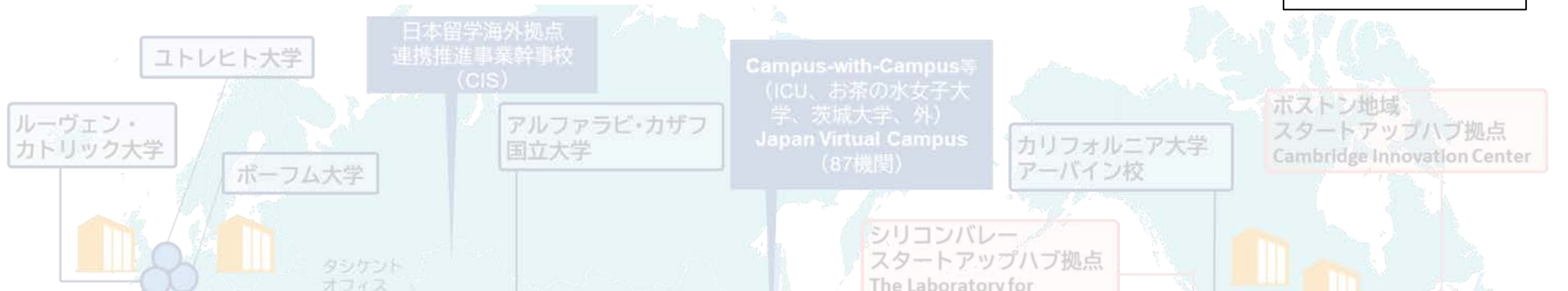


資料2



筑波大学の国際戦略の実績と方針

特に若手研究者ならびに学生の海外派遣について



筑波大学の国際ネットワーク

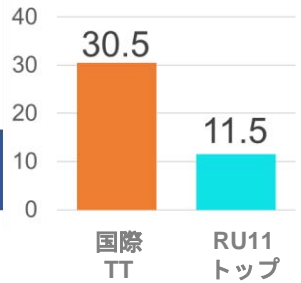
国際性と学際性を両輪として国内外に「開かれた大学」であること
 —建学の理念に基づいて

| | | | |
|----|--------------------|---------------------|----------------|
| 実績 | Campus-in-Campus* | 国際交流協定 | 海外教育研究ユニット招致 |
| | 協定校 13校 | 397 協定 (69か国・地域) | 14 ユニット |
| | 海外オフィス | スタートアップハブ拠点 | 国際テニュアトラック制度 |
| | 14 拠点 (12か国・地域) | 2 か所 | 32 人 (2014年から) |

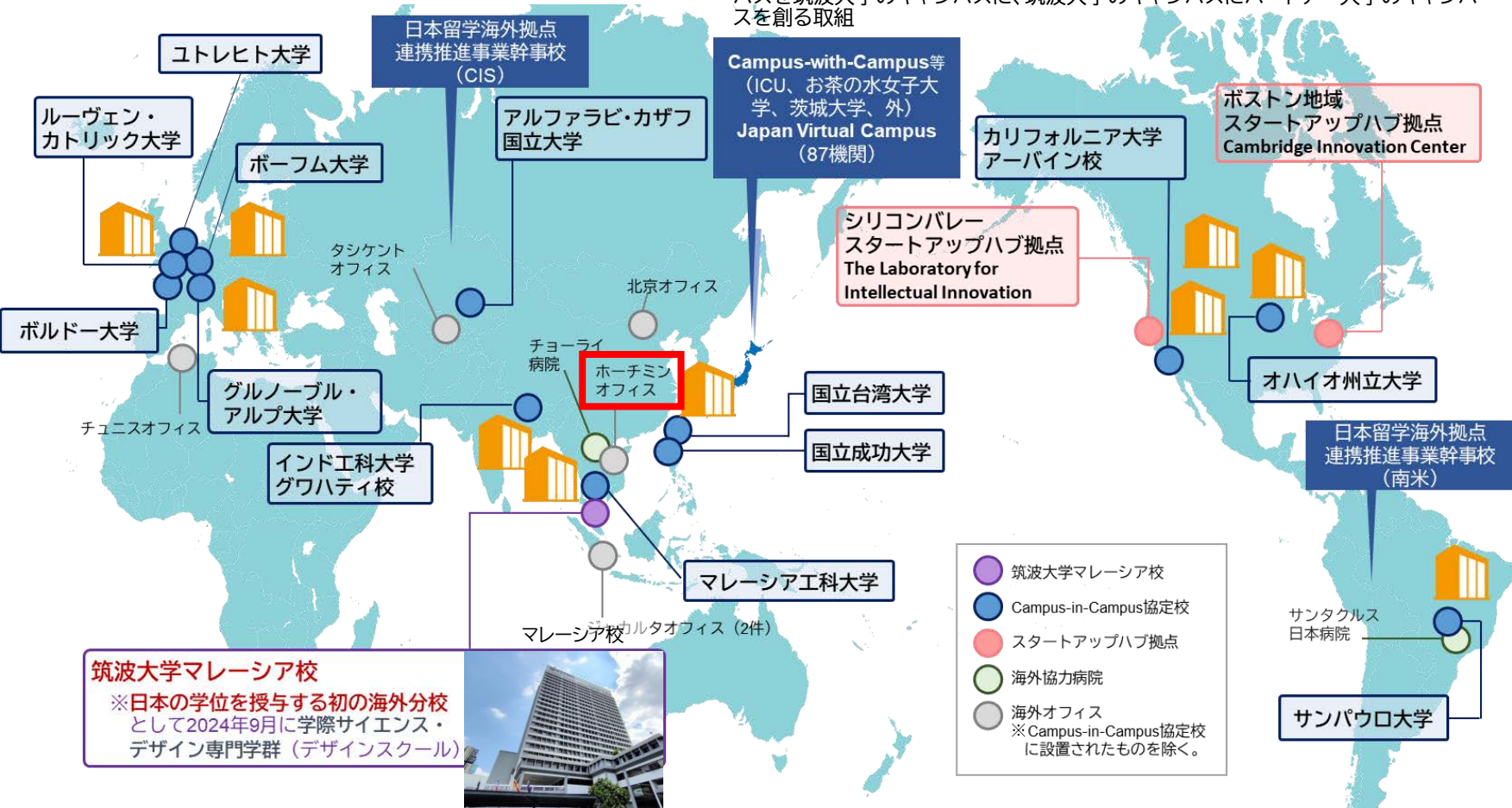
***Campus-in-Campus**とは
 海外の卓越したパートナー大学とキャンパス機能を共有し、パートナー大学のキャンパスを筑波大学のキャンパスに、筑波大学のキャンパスにパートナー大学のキャンパスを創る取組

国際テニュアトラック助教には、
 ・派遣先の海外研究機関で共同研究を推進し、一流の国際誌に国際共著論文を発表すること
 ・派遣先等と良好な関係を築き、テニュア獲得後も継続的に国際共同研究を行うことが期待されています。

TOP10%論文割合



国際テニュアトラック教員による論文の質はRU11トップと比較して格段に高い



頭脳循環を加速する戦略的若手研究者海外派遣事業 (2011-2013)

頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進事業 (2014-2017)

"Annual Presentation * Activities Abroad" will be held

"Annual Presentation * Activities Abroad" will be held as follows;

8 th Floor, Innovation Building
 Wednesday, February 20, 2013
 Anyone is welcome to attend

海外活動報告会

Annual Presentation * Activities Abroad
 at 8th Floor, Innovation Building
 - February 20, 2013 -

13:30 - 13:40 Opening Remarks from Professor Ohsaka
 <海外インターナショナルシップ報告会>

13:40 - 13:55 1. 学術 研究発表 (Scientist Research)

13:55 - 14:10 2. 実験 研究発表 (Experimental Research)

14:10 - 14:30 3. 分子生物学 (Molecular Biology Teaching)

Break

Taiwan 台湾

14:40 - 14:50 Outlook - Professor Iris

14:50 - 15:20 Summer School Participants
 M. Nya Seneel
 M. Yu Ishikawa

15:20 - 15:30 謝: Pei-Ran (Dual Degree Program from NTHU)

15:30 - 15:50 Tea Break

<継続的な若手研究者海外派遣プログラム報告会>

Young Researchers 若手派遣

15:50 - 16:00 1. 津田 裕紀彦 生体システム医学専攻 3年

16:00 - 16:10 2. 宮原 幸三 生体システム医学専攻 3年

16:10 - 16:20 3. プレムキムソン アラウゴザル 疾患制御医学専攻 2年

16:20 - 16:30 4. 藤 健樹 健康 (遺伝子工学専攻)

16:30 - 16:40 5. 西村 剛 動物 (遺伝子制御専攻)

16:40 - 16:50 6. 加藤 広介 動物 (ワイルド動物)

Break

17:00 - 17:10 7. 大庭 真由 動物 (動物生物学)

17:10 - 17:20 8. 加藤 泰弘 動物 (環境生物学)

17:20 - 17:30 9. 松本 正浩 薬学 (薬理学専攻)

17:30 - 17:40 10. 藤村 泰和 動物 (動物学)

17:40 - 17:50 11. 伊藤 勇之 動物 (遺伝子制御専攻)

Break

18:00 - 18:10 12. 藤原 真良 動物 (動物学)

18:10 - 18:20 13. 田中 真一 動物 (動物学)

Final Session for Activity Report about "YOUNG RESEARCHER OVERSEAS VISITS PROGRAM FOR VITALIZING BRAIN CIRCULATION" will be held

Final Session for "YOUNG RESEARCHER OVERSEAS VISITS PROGRAM FOR VITALIZING BRAIN CIRCULATION" will be held as follows;

YOUNG RESEARCHER OVERSEAS VISITS PROGRAM FOR VITALIZING BRAIN CIRCULATION

-Final Session for Activity Report-

Room 482, 4A Building
 Thursday, February 28, 2013
 Anyone is welcome to attend

Agenda

| | | |
|------------------------------|---|---|
| 16:00~16:10 | Outline of the Program | Dr. Satoru Takahashi |
| 16:10~17:10 (15min. each) | International Base 1. Edinburgh 2. Upsala 3. Duke NIH 4. UCSF | Dr. Satoru Takahashi Dr. Mitsuyasu Kato Dr. Hiroyuki Suzuki Dr. Yasunori Kanaho Dr. Jyun Hasegawa Dr. Akira Shibuya Dr. Satoko Tahara |
| 17:10~17:50 (20min. each) | Report of Dispatch 1. Duke NIH 2. Duke HIH | Dr. Masahiro Akiyama Dr. Atsushi Suzuki |
| 17:50~18:00 | Guideline for the future | Dr. Koji Hisataka |

< For inquiry >

Program Coordinator: Dr. Satoru Takahashi
 TEL: 029-853-7516/FAX: 029-853-6965
 E-mail: takahashi.satoru.za@tsukuba.ac.jp

- 多くの若手研究者の海外派遣が実現できた。
- 国際共同研究が開始された。
- 短期の多くの派遣（前半型）とネットワーク拠点形成（後半型）の両方ができるのが良い。

多様なマルチメンターによる社会変革を先導する次世代博士人材の育成

国際性の日常化を目指して

- 2009- ダブル・ディグリープログラム(19) 開設
ジョイント・ディグリープログラム(2)
→国際的な共同指導体制の構築
(7ヶ国・地域の11校)

- 2011- 世界展開力強化事業
中央アジア・中南米・中韓ASEAN・米国
欧州・インド・アフリカ

- 2014-23 スーパーグローバル大学創成支援事業
→Campus-in-Campus (CiC) 構想の推進
(10ヶ国・地域の13校)
JV-Campus事業(85機関)

- 2009-2013 グローバル30
事業
→世界的教育研究拠点の整備

- 2011-2017
博士課程教育リーディングプログラム
→ダブルメンター制の萌芽

- 2004- 第二号連係大学院
→連携機関を主体とした新たな大学院教育(2学位プログラム)

- 1992- 連携大学院方式
→筑波研究学園都市を中心とした研究機関との共同指導体制の構築(R7現在:39学位プログラム、31機関、教員229名)

- 1989- 社会人大大学院
→東京キャンパスに国内初の社会人夜間大学院を設立しリカレント教育の場を形成

- 2024-2029 大学の国際化による
ソーシャルインパクト創出支援事業
→筑波型多文化共修の海外展開

- 2017- グローバルヴィレッジ
→日本人と留学生の混住環境

2020- 指定国立大学法人 新たな学問分野の創成を目指して

- 2020
全学学位プログラム制 移行
→専攻の壁を超えた研究指導

- 2015- 協働大学院方式
→産学官協働による人材育成の場を実現
(5学位プログラム)



学際創成
学術院

国際性と学際性を両輪として全学で 社会と一体となった大学院へ

- 2021- SPRING事業
学問分野の壁を超えて多様な人材と共創できる
トランスポーダー型価値創造人材育成
若手研究者のためのwebサロンシステム
PhD×FUTURE.
→若手研究者と企業等のマッチング

- 2019- Tsukuba Startup Night
University of Tsukuba Night at
Boston
→大学発Startupの育成

- 2016- つくばクリエイティブ・キャンプ
→企業経営者等による起業家の育成

産学官連携 エンゲージメント*の強化を目指して

※大学と多様なステークホルダーが互いに
貢献し合うこと

次世代博士人材が
社会変革を先導

次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)

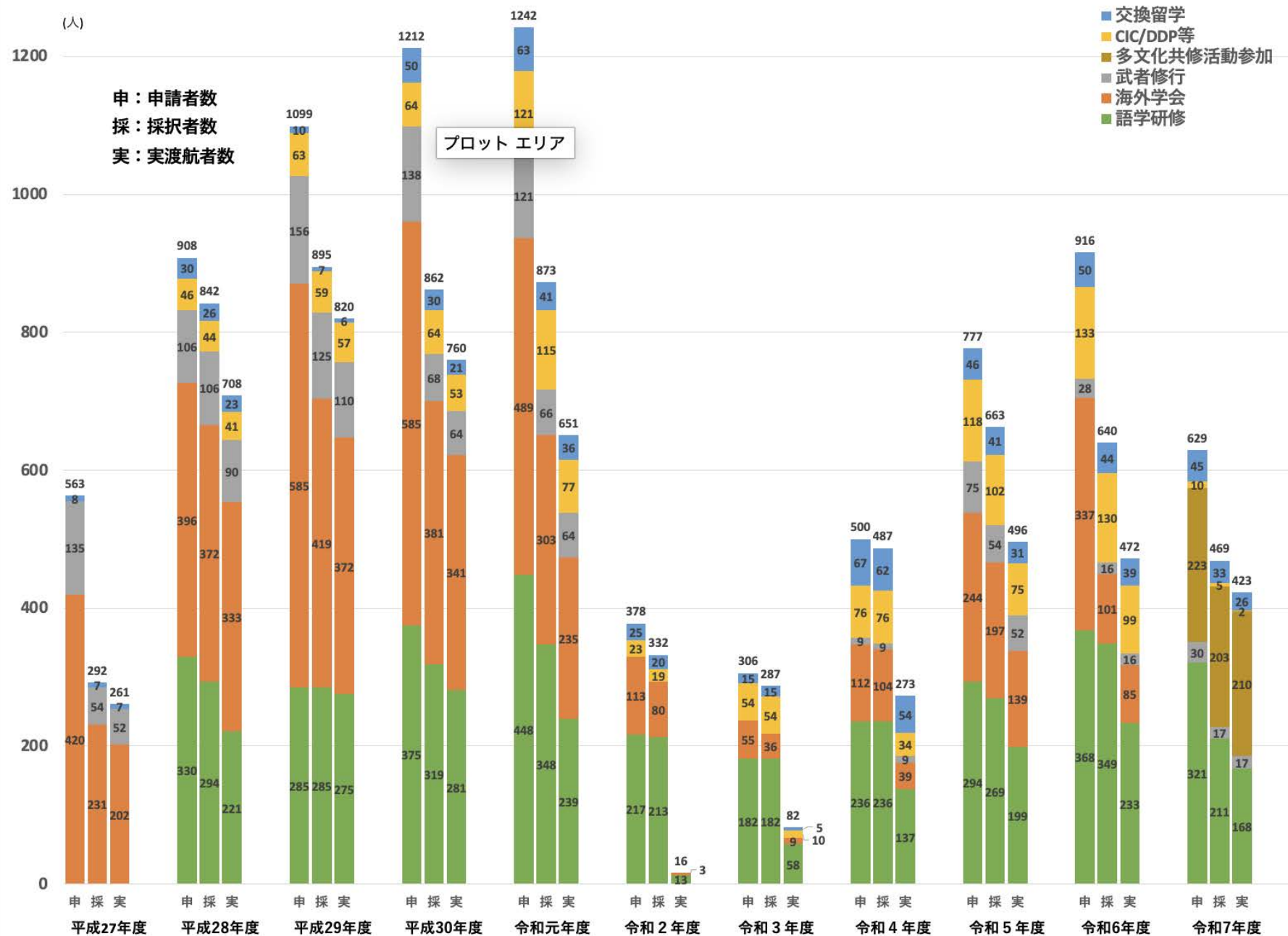
2025年度SPRINGの研究費を海外渡航に使った選抜学生数（博士課程学生）

| | 利用 学生数 | | インター シッ プ | 学会参加 | 研究、調査 | 短期研修 | 留学 | 計 |
|--------|------------|----------------|-----------------|------|-----------|------|-----------|------------|
| 日本人学生 | 134 | SPRING 予算 | 1 | 78 | 24 | 1 | 4 | 108 |
| 日本人学生 | | SPRING 予算以外 | 0 | 42 | 17 | 6 | 5 | 70 |
| 日本人学生計 | | | 1 | 120 | 41 | 7 | 9 | 178 |
| 留学生 | 118 | SPRING 予算 | 7 | 73 | 27 | 3 | 3 | 113 |
| 留学生 | | SPRING 予算以外 | 3 | 26 | 5 | 1 | 2 | 37 |
| 留学生計 | | | 10 | 99 | 32 | 4 | 5 | 150 |
| 合計 | 252 | | 11 | 219 | 73 | 11 | 14 | 328 |

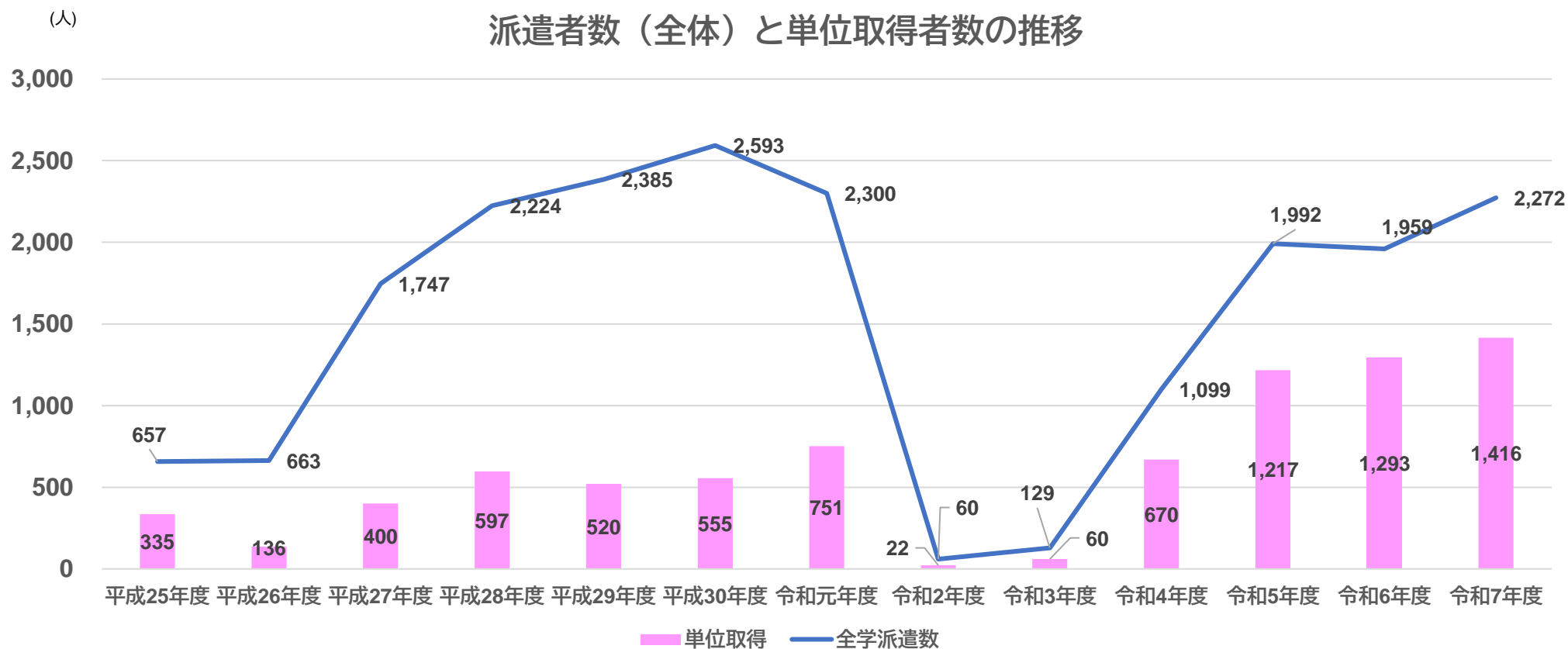
2025選抜学生総数 **632**

大学院共通科目
「国際研究プロジェクト」
「国際インターンシップ」

「はばたけ！筑大生」申請者数、採択者数及び実渡航者数の推移



学生の海外派遣実績（年次推移）



<参考> 受入外国人学生数

（含 特別聴講学生、特別研究学生、科目等履修生、研究生、ショートステイプログラム参加者）

| R2 | R4 | R5 | R6 | R7 |
|------|------|------|------|------|
| 2720 | 3427 | 4049 | 5293 | 4284 |

筑波大学大学院の学位プログラム一覧

人間の集合体である社会を探究する

人文社会ビジネス科学学術院

| | 修士・博士前期 専門職 | 博士後期・3年制博士 一貫制博士 |
|---------------------|----------------|---------------------|
| ■ 人文社会科学研究群 | | |
| 人文学位プログラム (M/D) | R | R |
| 国際公共政策学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 国際日本研究学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| ■ ビジネス科学研究群 | | |
| 法学学位プログラム (M/D) | R | R |
| 経営学学位プログラム (M/D) | R | R |
| 〈専門職学位課程〉 | | |
| 法曹専攻 (P) | R | |
| 国際経営プロフェッショナル専攻 (P) | E R | |

科学技術の根本原理を解き明かす 理工情報生命学術院

| | 修士・博士前期 専門職 | 博士後期・3年制博士 一貫制博士 |
|-----------------------------------|----------------|---------------------|
| ■ 数理工学科学研究群 | | |
| 数学学位プログラム (M/D) | R | E R |
| 物理学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 化学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 応用工学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 国際マテリアルズイノベーション学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| ■ システム情報工学研究群 | | |
| 社会学学位プログラム (M/D) | R | E R |
| サービス工学学位プログラム (M) | R | |
| リスク・レジリエンス工学学位プログラム (M/D) | R | E R |
| 情報理工学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 知能機能システム学位プログラム (M/D) | R | E R |
| 構造エネルギー工学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| エンバウメント情報学プログラム (5D) | | E R |
| ライフイノベーション (生物情報) 学位プログラム (M/D) | E | E R |
| ■ 生命地球科学研究群 | | |
| 生物学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 生物資源科学学位プログラム (M) | E R | |
| 農学学位プログラム (D) | | E R |
| 生命農学学位プログラム (D) | | E R |
| 生命産業科学学位プログラム (D) | | E R |
| 地球科学学位プログラム (M/D) | | E R |
| 環境科学学位プログラム (M) | E R | |
| 環境学学位プログラム (D) | | E R |
| 山岳科学学位プログラム (M) | R | |
| ライフイノベーション (食料革新) 学位プログラム (M/D) | E | E R |
| ライフイノベーション (環境制御) 学位プログラム (M/D) | E | E R |
| ライフイノベーション (生体分子材料) 学位プログラム (M/D) | E | E R |
| 〈外国の大学との国際連携教育課程〉 | | |
| 国際連携持続環境科学専攻 (M) | E | |

英語のみで修了できる学位プログラム
修士・博士前期 28/48 学士課程 7
博士後期・一貫制 31/48

学際的・総合的な視点で人間研究を行う

人間総合科学学術院

| | 修士・博士前期 専門職 | 博士後期・3年制博士 一貫制博士 |
|---------------------------------|----------------|---------------------|
| ■ 人間総合科学研究群 | | |
| 教育学学位プログラム (M/D) | E R | R |
| 心理学学位プログラム (M/D) | | R |
| 障害科学学位プログラム (M/D) | R | R |
| カウンセリング学位プログラム (M) | R | |
| カウンセリング科学学位プログラム (D) | | R |
| リハビリテーション科学学位プログラム (M/D) | R | R |
| ニューロサイエンス学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 医学学位プログラム (4D) | | E R |
| 看護科学学位プログラム (M/D) | R | R |
| フロンティア医科学学位プログラム (M) | E R | |
| 公衆衛生学学位プログラム (M) | E R | |
| ヒューマン・ケア科学学位プログラム (D) | | R |
| パブリックヘルス学位プログラム (D) | | R |
| スポーツ医学学位プログラム (D) | | |
| 体育学学位プログラム (M) | R | |
| スポーツ・オリンピック学学位プログラム (M) | E | |
| 体育科学学位プログラム (D) | | R |
| コーチング学学位プログラム (D) | | |
| スポーツウェルネス学学位プログラム (M/D) | R | R |
| 芸術学学位プログラム (M/D) | R | R |
| デザイン学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| 世界遺産学学位プログラム (M/D) | R | E R |
| 情報学学位プログラム (M/D) | E R | E R |
| ヒューマンバイオロジー学位プログラム (5D) | | E |
| ライフイノベーション (病態機構) 学位プログラム (M/D) | E | E |
| ライフイノベーション (創薬開発) 学位プログラム (M/D) | E | E |
| 〈他大学との共同教育課程〉 | | |
| スポーツ国際開発学共同専攻 (M) | E | |
| 大学体育スポーツ高度化共同専攻 (D) | | R |
| 〈外国の大学との国際連携教育課程〉 | | |
| 国際連携食料健康科学専攻 (M) | E | |

※2019年度から継続して実施する特別プログラム

グローバル教育院

ヒューマニクス学位プログラム (5D)
※2018年度文部科学省「卓越大学院プログラム」採択

【凡例】

- M : 修士課程又は博士前期課程
- D : 博士後期課程又は3年制博士課程
- 5D : 5年一貫制博士課程
- 4D : 医学を履修する博士課程 (4年制)
- P : 専門職学位課程

- E 英語のみで修了できる学位プログラム
- R 社会人の受入れに配慮した制度を有する学位プログラム
制度例: 昼夜開講制、夜間大学院、博士後期課程早期修了プログラム、長期履修制度、社会人特別選抜など

- 🎓 研究学位
- 👤 専門学位
- 👤 専門職学位

- 📍 筑波キャンパス
- 📍 東京キャンパス

IMAGINE THE FUTURE.

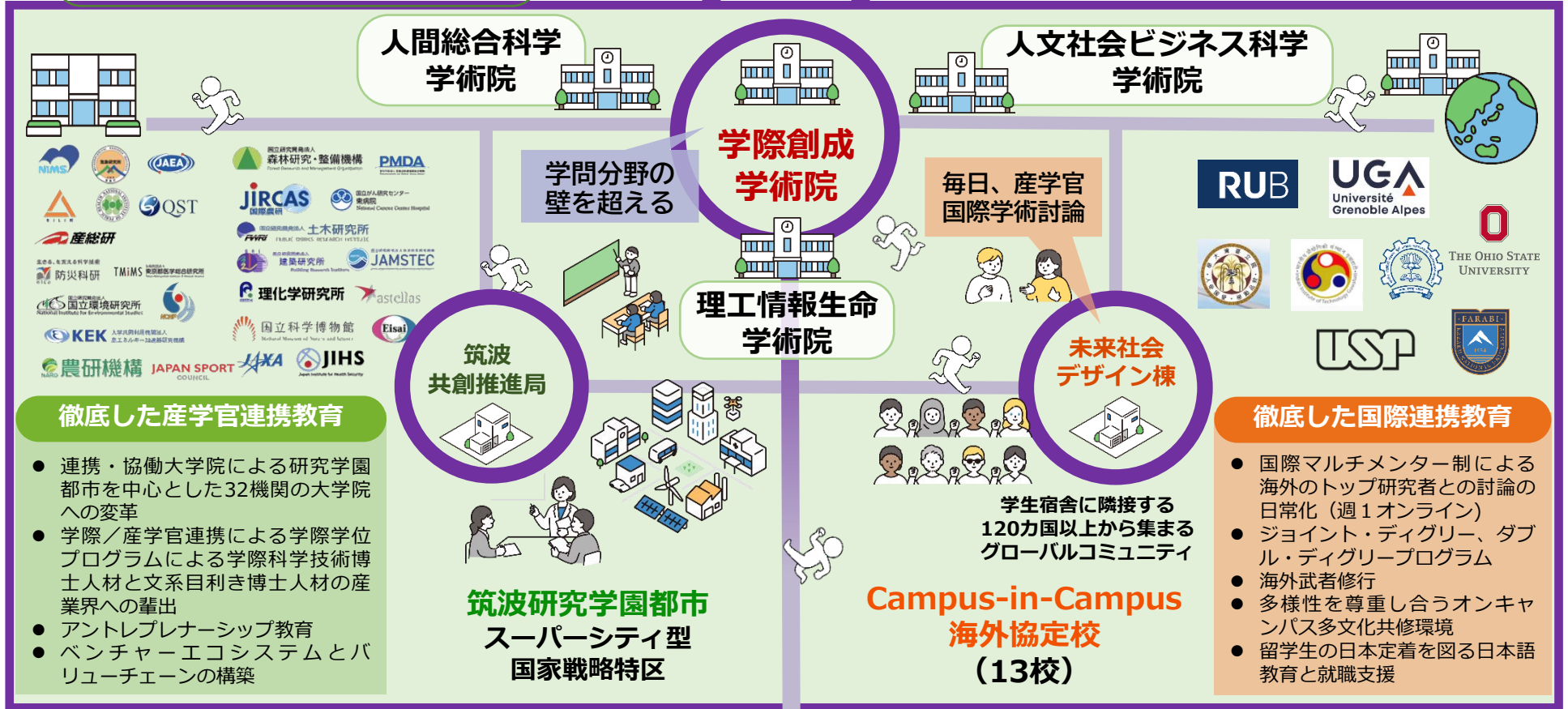
筑波大学による博士人材育成ビジョン

日本の産業の革新

技術革新を生み出す高い生産性・
価値創造性をオールつくばの
産学官マルチメンター教育で鍛え上げた
学際科学技術博士人材

博士のキャリア改革
社会での活躍

科学技術に精通し、国際交渉力を
日常化した国際性と海外武者修行で
徹底的に鍛え上げた
目利き博士人材



徹底した産学官連携教育

- 連携・協働大学院による研究学園都市を中心とした32機関の大学院への変革
- 学際/産学官連携による学際学位プログラムによる学際科学技術博士人材と文系目利き博士人材の産業界への輩出
- アントレプレナーシップ教育
- ベンチャーエコシステムとバリューチェーンの構築

徹底した国際連携教育

- 国際マルチメンター制による海外のトップ研究者との討論の日常化 (週1オンライン)
- ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリープログラム
- 海外武者修行
- 多様性を尊重し合うオンキャンパス多文化共修環境
- 留学生の日本定着を図る日本語教育と就職支援

外国人・社会人の入学者拡大

- ★リクルート・アドミッションセンター
- ★外国人比率: **学士15%, 修士30%, 博士40%** (2034年)
- ★社会人比率: **40%** (2034年)

学士/修士課程の教育改革による進学率向上

- ★つくば型チュートリアル
- ★日英リベラルアーツ教育
- ★キャリアプランニング・アントレプレナーシップ教育
- 学士/博士取得者数比率 **20.7%→30.4%** (2024 → 2034年)

組織改革/博士人材のキャリア改革

- ★学士課程日本人学生数**15%/30%減**
- ★博士課程学生数**1.5/3倍**(2034/2040年)
- ★博士人材の産業界への就職者数 **200人 → 400人/年** (2024 → 2034年)

学際創成学術院とは

学際創成学術院は、学生自身が専門を超えて学びを融合し、新しい学問と社会的価値を創る舞台です。

学際創成学術院は、下記5つの学位プログラムから成る筑波大学の新しい大学院です。

■ 創成法学学位プログラム

AIなどの科学技術の進展に対応し、法学・政治学・社会学やその他の学問領域を横断して未来の法制度を研究するプログラム

■ ソーシャルエコロジー学位プログラム

社会を生態的な動的ネットワークとして捉え、経済学をはじめとする社会科学の視点から先端技術の社会実装と人間社会の本質を研究するプログラム

■ 次世代エネルギー共創学位プログラム

物質科学や情報工学を基盤に、社会実装を見据えてエネルギーや環境技術などを研究するプログラム

■ ライフサイエンス学位プログラム

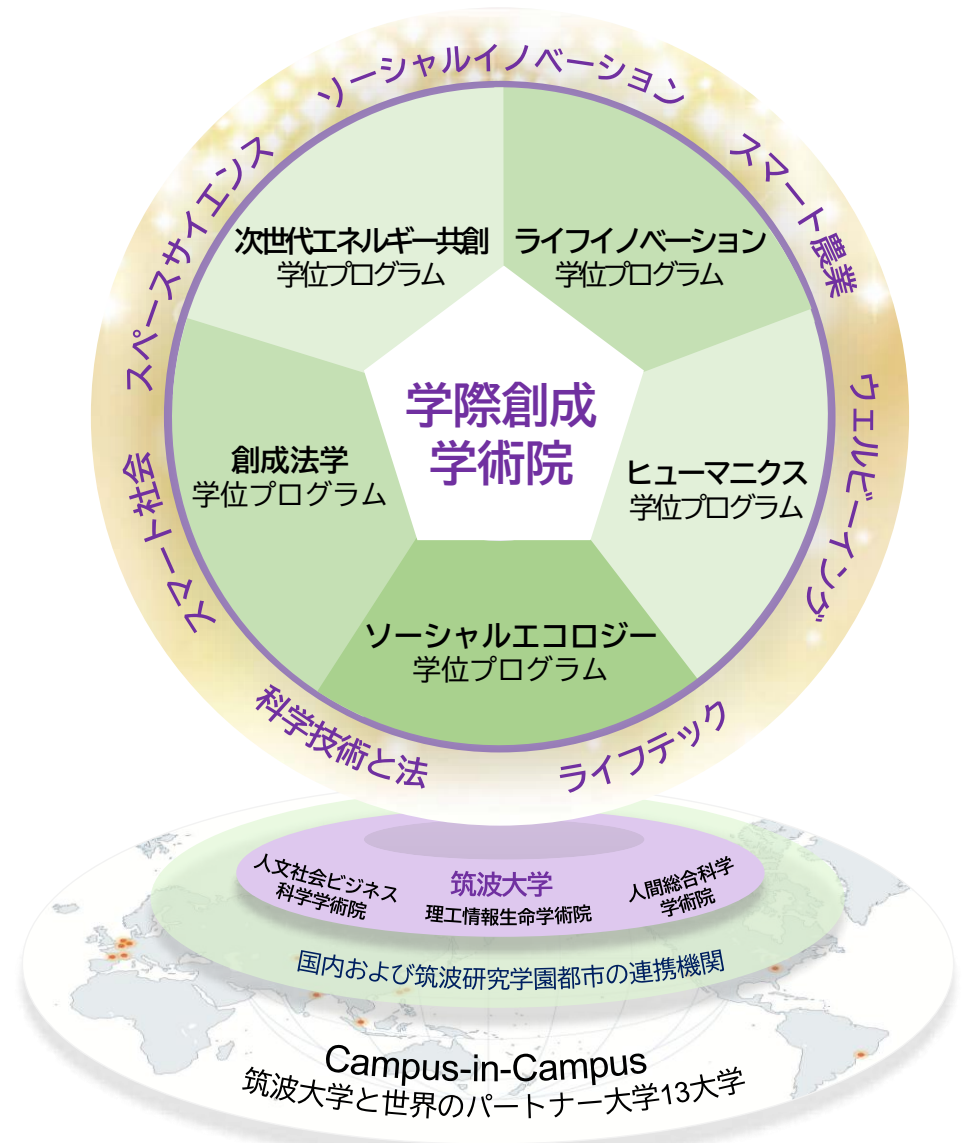
ライフサイエンス分野で次世代のイノベーションを切り拓く、病態や創薬、生体分子、食料、環境、生物情報を研究する協働大学院方式のプログラム*2

■ ヒューマニクス学位プログラム

医学・生命科学・ロボット工学・情報学を智の基盤として融合し、新たな学問分野を切り拓く先端研究を行う卓越大学院プログラム*1

※1卓越大学院とは、各大学が強みとする分野で国内外の大学・研究機関・企業と連携し、世界水準の5年一貫博士課程を構築して、社会の変革をリードできる高度な「知のプロフェッショナル」を育成する文部科学省の事業。ヒューマニクス学位プログラムは、卓越大学院プログラムの中間ならびに最終評価で、最高評価のS評価を獲得しました。

※2協働大学院方式とは、国立・独立行政法人(国立研究開発法人を含む)・民間企業等の研究機関と本学の連携による教育研究プラットフォームを創出するための、本学独自の大学院方式です。



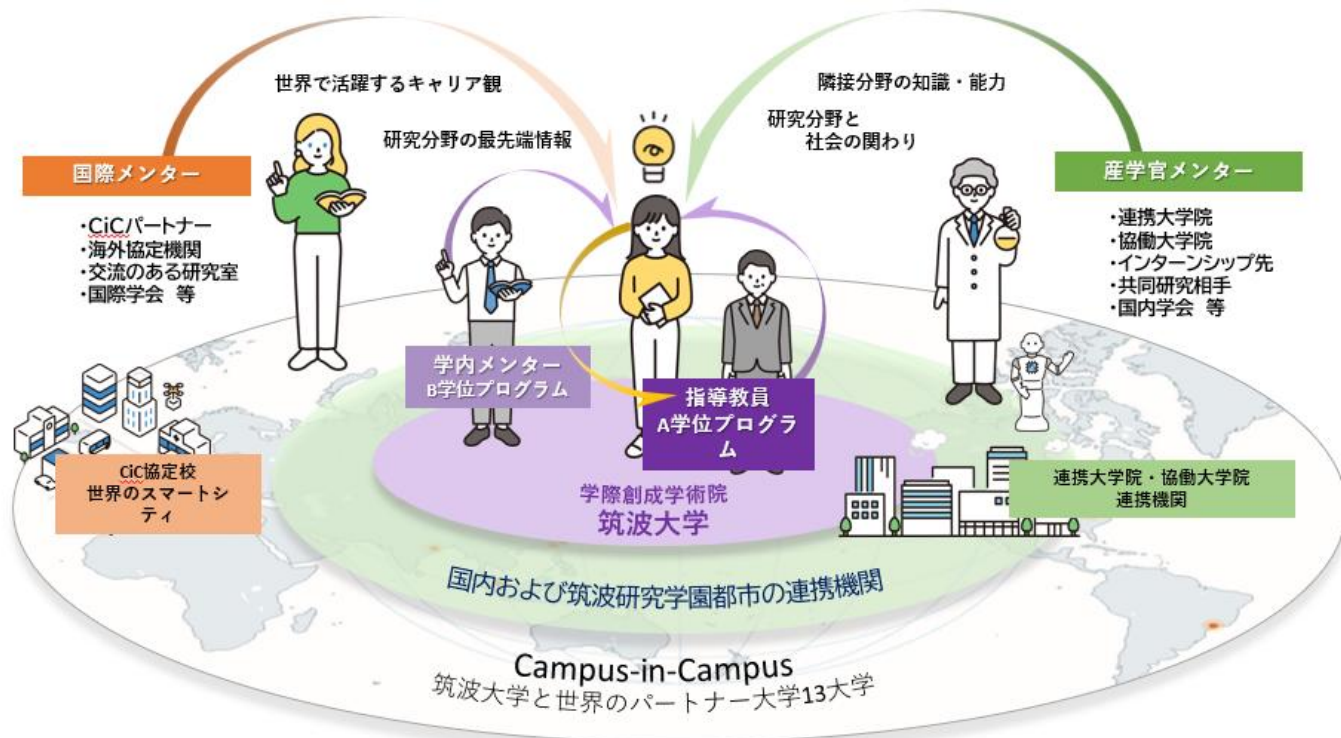
学際創成学院は、単独の学問分野では解決できない地球規模課題に挑み、学問の壁を超えた知の統合と社会実装を推進します。

- ◆ **学際性**: 生命・情報・法・経済・環境・工学を横断した教育研究体制
- ◆ **国際性**: 世界のCiC協定校13大学との連携、海外研究者とのマルチメンター※指導
- ◆ **実践性**: 研究成果を社会に実装し、新しい価値を創造

理念・目的

本学院は、自然、人間、人間の営みと創造物、その他の全てを対象として、複数の専門領域を有機的に結びつけ、真理の探究と価値の創造を循環統合し、人文社会、法学、生命医科学、理・工・情報学などのそれぞれの学問分野だけでは生まれない革新的な研究を創成し、イノベーションを実現するとともに、学術の領域を問わず先端的研究者から学ぶことができる教育研究体制とマルチメンター制を活用して、学生が専門を深めつつその枠を超えた学際研究を自主的に創出する意欲を支援します。これにより、ありたい未来を創成する高度研究人材並びに高度専門職業人を養成する世界拠点になることを目的とします。

筑波大学のマルチメンター制※



※マルチメンター制とは、学生が自身の研究課題に応じて複数の学問分野や大学と企業あるいは本学と海外大学などカテゴリーの異なる複数の教員から研究上の助言を得る事を可能にする仕組み。

まとめ

- ・我が国の**研究力強化**や**産業界の再興**のための博士人材の育成の裾野の拡大には、国際性向上のための海外経験の活性化が必須である。
- ・コロナ禍以降、若手研究者や学生の海外渡航へのモチベーションは低下している。
- ・モチベーションを上げるには、海外渡航を行った若手研究者や学生の経験を報告会等で共有すること、段階を踏むこと、渡航のための経済支援が重要である。
- ・若手研究者の海外派遣を最も有効にするために必要なのは学生時代からの**海外経験と研究力**である。
- ・大学が組織的に若手研究者と博士後期課程学生の海外派遣を推進するには、**教員の積極的な国際活動と学内の日常の国際化と身の回りの多くの学生が海外渡航する環境と渡航を支える資金の確保**が必要である。
- ・学生の場合、教育課程の編成の際に**科目編成**や**学年暦**などで学生が海外渡航しやすい環境を整えることが重要であり、学生自身が**日本の現状を深く理解し**、社会変革が必要であることを認識し、自分自身が**チャレンジしようとする意欲**を涵養することが重要である。
- ・課題は分野によって差異があるが共通課題も多い。
- ・戦略的な送り出しを行うに当たっての課題は、優れた海外パートナーとの**持続的な活動**とそれを支える**大学による資金の確保**である。